

II-1 子どもの顔を見て話していますか

【プログラムのねらい】

- ・子どもとの何気ない日常的な会話のなかで、聞いたり話したりする時の自分の癖に気づき、気持ちのよい会話をするための方法を考える。
- ・人に話をきちんと聞いてもらうとどんな気持ちになるかを体験して、今後の子育てやコミュニケーションに生かす。

【プログラムの展開例】

時間	進め方	準備
10分	<p>▶ アイスブレイキング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ分け(4人グループになる) 	P2「アイスブレイキング各種」参照
30分	<p>▶ Work</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エピソードを読み、「勇太君の気持ちを体験してみましよう」とロールプレイの説明をする。 ・勇太役、母親役、観察者2人の役割を決める。(時計回りで順に交代し、全員がすべての役割を行う) ・ロールプレイをする(3分+意見交換2分=5分)×4回 <ul style="list-style-type: none"> ※勇太と母親になりエピソードの再現をする。 ※どんな気持ち(自分自身・相手への)になるかグループで出し合う。 ・勇太、お母さんの気持ちを考え、ワークシート②に書く。 	エピソード メモ紙(観察者用)
20分	<p>▶ グループ発表、まとめ、振り返りシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えられる対応を話し合い、ワークシート③にまとめる。 ・会話をする時の自分の癖を書き出す。 ・時間のないときに子どもの話を聞く工夫を考える。 ・出席者全体でロールプレイを通して気付いたことを発表し合い、共有する。 ・他のグループの発表に対しての感想を書き留める。 ・今日のプログラムで感じたこと学んだことを書き出す。 ・今後自分に実践できそうなことを書き出す。 	資料 振り返りシート